
外観と構造を整える 『プランづくり』 I

The training to design the house



Text for designs



外観と構造を整える『プランづくり』 I

■ 目次

目次	01
『遊のブロックプラン』による設計手法	02
プランニングの手順	06
実践! ブロック探し	10
プランニングの基本習得	16
実践! プランニング	44

『遊のブロックプラン[®]』 による設計手法

『遊のブロックプラン』設計手法は、住宅専門の建築設計事務所である、遊建築設計社が行っているプランニング手法です。この手法の最大の特徴は、施主の要望を的確に捉え、『意匠と同時に構造も整理される』ことにあります。また、無駄のない合理的な考え方が、プラン作成のスピードを向上させ、弊社では、少人数で年間500棟のプランづくりを可能にしています。ここでは、ブロックプランでつくられた家のメリットを詳しく紹介します。

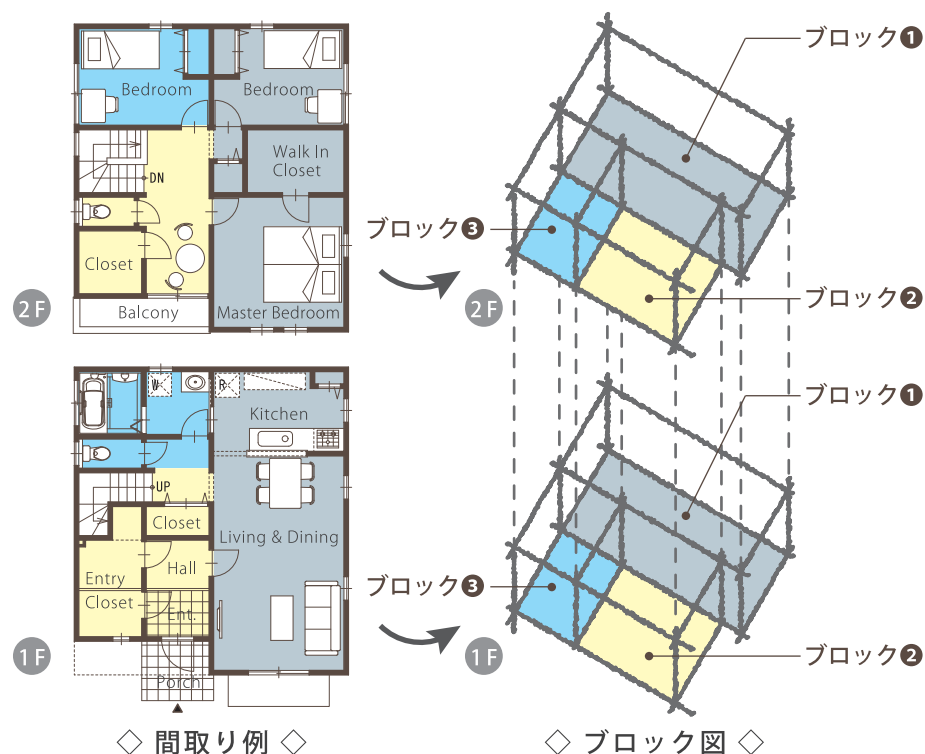
※『遊のブロックプラン』は、有限会社 遊建築設計社の登録商標です。

『ブロックプラン』の家

1 強くたくましい家

構造が安定。間崩れのない家で安全・安心。

住まうことへの安心感は、構造の安全性が重要です。ブロックプランでプランニングすると、1階と2階が同じブロック（箱）で重なり合い、間崩れがおきず構造が安定します。シンプルなフレームがたくましい構造をつくれます。



ブロックで考えると1階と2階の壁（柱）が同じ位置で重なるので安心。合理的です。



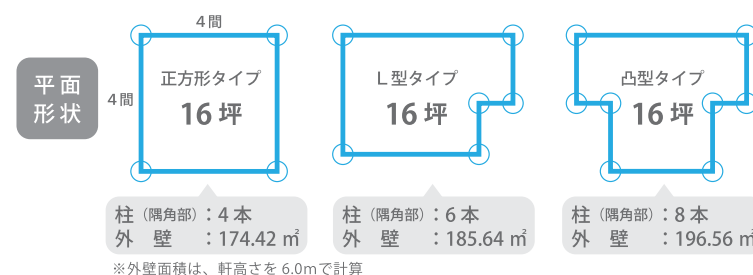
2 シンプルな間取りの家

シンプルな『カタチ』でコストダウン。

ブロックプランの家は、シンプルな形状の構造フレームとなります。そのため、構造材積を抑えることと同時に、組み立ての大工手間を減らし工事費のコストダウンを実現します。

参考例

① 同じ16坪の面積でも、外壁の面積、柱の数が違います。



- 角（隅角部）に設ける柱の数が異なる。
- 外周の長さが長くなり、外壁面積が増える。
- 複雑な形状で材料が増えれば、手間賃も上がる。



② 凹凸が増えると、屋根の形も複雑になります。



- 屋根の仕上げ材が増える。
- 棟や谷の数や長さが異なる。
- 複雑で材料が増えれば、手間賃も上がる。

コスト
DOWN

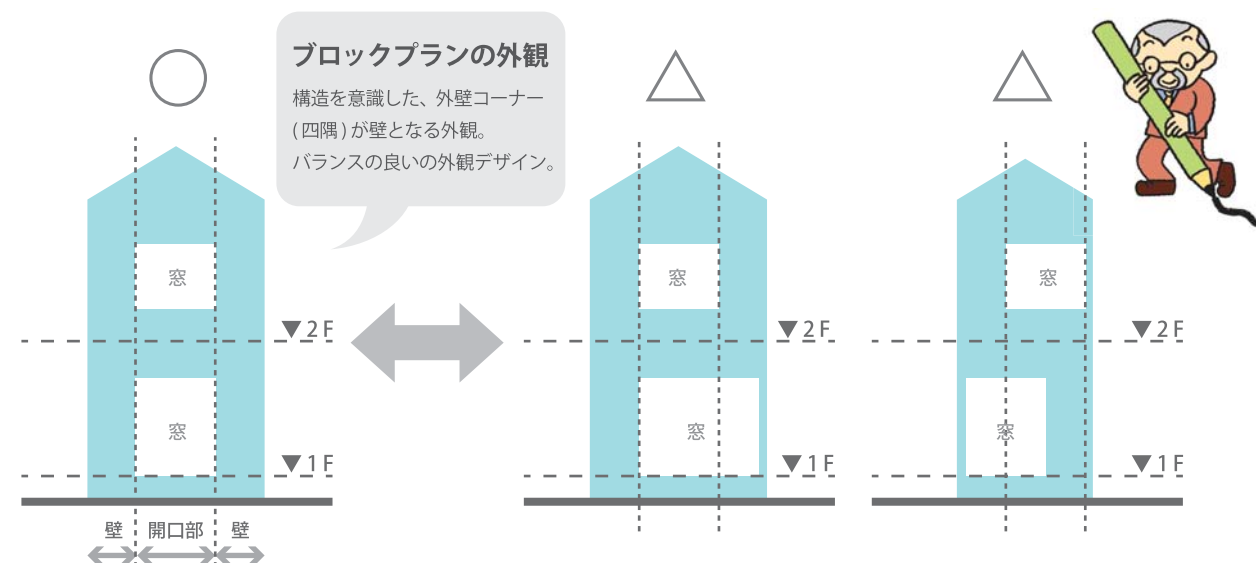
複雑なカタチは、コストアップになります！

コスト
UP

3 デザイン性に優れた家

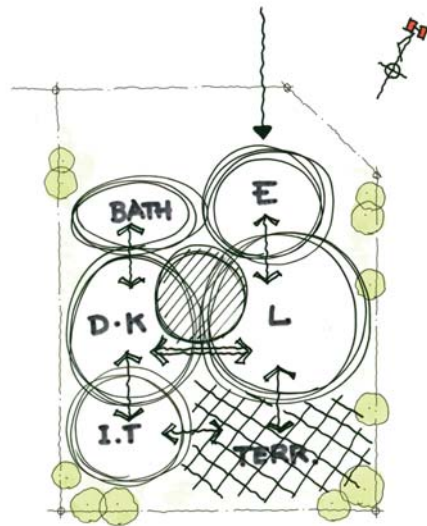
構造の安定からくる安心のデザイン。

ブロックプランの家は、構造の安定を考えて、ブロック（箱）の四隅に可能な限り壁を設けます。従って、上下階（1階と2階）の壁や窓（開口部）の位置が揃い、バランスの良い外観となります。



[ゾーニング手法との違い]

施主が満足する魅力的な間取りや外観デザイン、難しいと思いませんか？「簡単にはつくれない」とか「プロの設計者で無ければプランニングはできない」などと思いませんか？経験のない方、プランづくりのスピードUPを図りたい方におススメの手法、それが『ブロックプラン手法』です。「ゾーニング手法」と「ブロックプラン手法」との違いを見てみましょう！



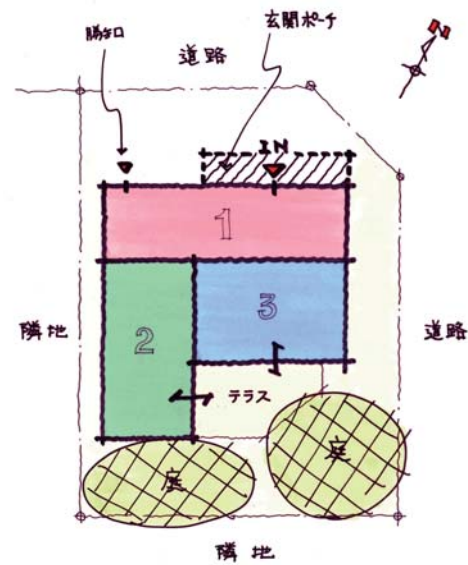
ゾーニング図

■ ゾーニング手法

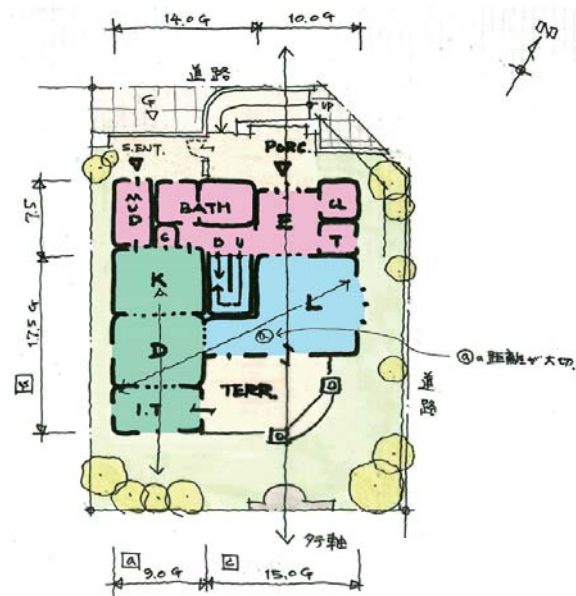
『ゾーニング』手法では、同一ゾーン（部屋）を大小異なる○で表現し、相互の関係は矢印等で結び、動線を明確にしていきます。計画する住まいのコンセプトを考えるにはよい手法です。

しかし、定量化していないために『リビングなどが大きくなってしまった』り、『計画建物が敷地からはみ出した』という経験はありませんか？

慣れないと定量化が難しく、ある程度の経験を要します。そして、プランニングに時間がかかります。



ブロックプラン図



ブロックプラン図 (詳細)

■ ブロックプラン手法

私どもの事務所では、『ブロックプラン』という手法でプランニングしています。

この手法の特徴は、**縦×横（形状・面積）**で計画することです。

条件を数値化することで、面積オーバーや外観デザインに悩む事がなくなりプランを作成するスピードがアップします。住宅の計画には最適な手法と自負しています。

[ブロックプランの特徴]

『ブロックプラン』というプランニング手法は、合理的で優れた設計手法です。プランづくりが単純な作業となり、今まで混乱し堂々巡りを繰り返していたプランニングが面白い様に整理されます。

その特徴は次の5つです。

1 無理無駄のない間取りが出来上がる

計画条件を定量化・数値化することによって、無理無駄のない間取りが出来ます。完成された間取りや外観は、施主さんの希望（計画意図）を確実に捉えたものとなります。

2 プランニングのスピードUPが図れる

この手法で使われる計算は、足し算と引き算だけです。難しい数学は必要ありません。従って、35坪前後の住宅ならば、慣れると一日に4～5プランつくることも可能となります。

3 工事予算に合った間取りが出来る

施主さんとのヒアリング時に、必ず帖数表（床面積表）を作成し、その場で面積を調整していくことで、トータルの床面積に大きな増減が発生しにくくなります。予算内に収まる間取りが出来ます。

4 外観デザインが自然と整う

常に外観（立面）をイメージした平面計画のため、必然的に立面図が整います。平面計画後に立面を整える労力が軽減されます。上下階の壁や窓の位置が自然と揃い、バランスの良い外観デザインとなります。

5 構造の安定性が図れる

上下階のブロックが同一面積（縦×横）で重なり合うことから必然的に構造の安定が図れます。シンプルな構造フレーム（ブロック）がたかましい構造をつくります。